

★手を休めずに誘って  
食わせた会心の1尾



▲竿はマハタの強烈な引きを受け止める、胴に張りのある青物竿などがおすすめ



★最初に上がった  
マハタが当日最大  
1.8キロ

南房西川名港出船  
マハタ、カンコ、オニカサゴです。  
撮影●権名義徳

# イワシ泳がせて狙う南房の根魚五目



▶底から5～10メートルの  
範囲をゆっくり巻き上  
げて探る

▲アヤマカサゴも

▶マハタは小型も交じる

▼釣り場は布良～洲ノ崎  
沖の水深20～75メートル



▲カンコがイワシを丸飲みして上  
がってきた  
▲仕掛けは胴つき式、ハリス12号  
1メートル1本バリを推奨



▶エサのマイワシ  
は15センチほど



▶乗船時は船宿に  
5時半集合、受け  
付けを済ませて荷  
物を軽トラックに  
積み込む  
▶荷物は船着き場  
まで運んでくれる  
▼船着き場まで徒  
歩数分。船長の指  
示に従い乗船する



▲水深75メートル付近でオニカサゴが上  
がった



▲筆者も1キロ級をキャッチ

ご覧のマハタやカサゴ類など多彩な根魚が交じってにぎやかな五目釣りが楽しめる。取材日に釣れたマハタは最大1.8キロだったが、同船が狙う布良～洲ノ崎沖沖沖には3キロオーバーの大物も潜む。イワシの回遊が本格化する早春に向けて期待は高まるばかりだ。  
(詳細は52ページ参照)

房総半島の西端に位置する洲ノ崎周辺の海域は、四季折々の釣りが楽しめる名場所。根魚が濃いことでも知られ、地先の岩礁帯ではマハタを始め、アカハタ、アオハタ、カンコ（ウツカリカサゴ）、オニカサゴ、アヤマカサゴなど様々な魚種が顔を出してファンを喜ばせる。  
そんな根魚たちを狙っているのが西川名港の竜一丸。この時期は生きイワシを泳がせる根魚五目乗合で出船し、



●南房西川名港・竜一丸  
安西 竜一船長